

あだたら



開発教育特集

JICA研修員から世界を学ぶ高校生

福島県教育委員会が国際教育に力を注ぐ富岡高等学校ではJICAとの連携のもと、視野を広げた高校生が着実に育っています。
(写真：平成20年7月3日の国際理解授業の様子)



食品の価格高騰や安全性への不安、異常気象と地球環境の悪化、国境を越える新種の感染症の脅威、金融不安や石油価格高騰、貧困の拡大とテロによる治安の悪化…日々報道で耳にするこれら私たちの日常を取り巻く問題は、どれも国際社会が共通に抱える地球規模の課題です。「運命共同体としての地球」「宇宙船地球号」に暮らす「地球市民」として、日本や開発途上国、また日本とそれらの国々との関係をしっかりと捉えることがこれからの私たちには求められています。特に、次世代を担う子どもたちがこうしたことに目を向け、学ぶことのできる環境が福島県内でも整っていくことを願い、JICA二本松では「開発教育支援事業」として、主に学校関係の皆さんを対象にしたプログラムを提供しています。



JICA 二本松 施設見学

JICA二本松は安達太良山の中腹に立地していますが、決して雲の上の施設ではありません。どんな場所でどんな訓練をしているのだろうか？是非一度、見学にいらしてください。一般の皆さんに施設のご案内をいたします。特に、開発教育や国際理解教育を年間のカリキュラムとして取り組んでいる学校の皆さんには、JICA二本松の施設を利用してJICA事業や国際協力を学ぶプログラムを提供しています。平成20年度上半期では42団体818名の皆さんの訪問を受けました。



▲施設見学プログラムのひとつ（貿易ゲーム）の様子

泉崎村教育委員会 瀬戸 隆行 主任主事

(小学校6年生 80名 平成20年6月16日,17日実施)

泉崎村教育委員会では、「世界の豊かさ」をテーマに（第一・第二小学校）6年生児童を対象に異文化体験交流事業をJICA二本松にて実施しております。

昨今、競争社会の歪みから『自分さえ良ければいい』という風潮が多くなりました。その根底には『日本さえ良ければいい』という考えがあるのではないのでしょうか。限られた先進国のみが豊かに暮らし、豊かさの中で更に効率や利益、競争を追求している。利益

と効率を貪る先進国の強い光、その影の部分に発展途上国の苦悩が存在しております。

国際的な問題の多くは、こうした利益と効率を過度に求め、自分さえよければという姿に至ってしまった社会にあります。本村の理念に『結の精神』があります。他人の痛みや悲しみを自分の事のように感じ、優しさともごころを持って、助け合いながら暮らしていく。みんなの幸せを願う精神です。21世紀の国際社会は国

士が感情的にも物質的にも助け合い、至誠（まごころ）を持って結合する社会ではないでしょうか。

JICA二本松の優れた開発教育やユニークな理解プログラム、そして協力隊経験者の熱意溢れる体験講義は、小学生の若い心に『なぜ?』という気づきを生んだ様子でした。貧困・飢餓・恐怖・・・『世界の豊かさ』を考える一人一人の小さな気づきが、未来への大きな可能性に繋がると期待をしております。



国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

国際協力についての考え方や地球市民としての心がけなどをエッセイに綴っていただくコンテストです。上位入賞者には夏休みに海外研修旅行がプレゼントされます。今年度は福島県内では中学で1700作品以上、高校でも1100作品近くの応募がありました。これは首都圏や東海、近畿など大都市部の都府県での応募数を凌ぐ数で、福島県中高生の意識の高さが窺えます。毎年6月から9月上旬が応募期間ですので、夏休みを利用して出前講座などで学んだり感じたことをまとめる良い機会になるのではないのでしょうか。

今年度のポスター↓



二本松市立二本松第一中学校 小山 文夫 教諭

(平成20年度109作品応募校)

国語の3年教材に「温かいスープ」という随筆文があります。終戦後のパリで、貧乏な大学講師であった筆者は、月末になると小さなレストランでのオムレツだけの食事で我慢しなければならなかったのですが、そのレストランの母娘はさりげなく、二人分のパンと

温かいスープを差し出してくれたというお話です。

国際性という言葉が一人歩きをすることも多い昨今ですが、彼女たちがはにかみながら見せてくれた「隣人愛」こそが国際性の基調ではないのでしょうか。それは相手を思いやる優しさ、お互いが人類

の仲間であるという自覚です。そうだとすれば、それは一人一人の平凡な日常の中で試されているといえるでしょう。

「JICA国際協力エッセイコンテスト」に毎年、多数応募することにより、その実践が日常の中で一つでも図れればと思います。

「施設見学」 「出前講座」 の申し込み方法

JICA二本松のホームページ【施設見学のご案内】から申込書のダウンロードができます。必要事項をご記入のうえ、メールかファックスにてお送りください。なお、「世界のグッズの貸出」に関するお問合せは、JICA二本松 開発教育担当者まで。

URL:<http://www.jica.go.jp/nihonmatsu/>
TEL:0243-24-3200 FAX:0243-24-3214

JICA二本松

検索



国際協力出前講座

実際に国際協力の現場を経験した方々の話を聞いて学びたい。そんな時に、青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの経験者やJICA職員・国際協力推進員などが学校に出向いてお話をします。特に、開発教育や国際理解教育を年間カリキュラムとして取り組んでいる学校の授業内容に広がりや深まりを持たせるために活用していただくと、より効果が上がるでしょう。講師の派遣に係わる実費(交通費/謝金)は申込者側で負担していただくこととなります。平成20年度上半期では延26団体に33人の講師を派遣しました。



▲福島県の協力隊OBIによる出前講座の様子

福島県立あさか開成高等学校 吾妻 久 教諭

(高校3年生 252名 平成20年6月25日実施)

本校では、学年ごとに異文化理解・国際交流・国際貢献について総合的な学習の時間を実施している。

今年度、3年生は6月25日に国際協力出前講座で、青年海外協力隊経験者による講演会を開催した。各クラスに一人ずつ講師を招き、異なる地域での活動や協力隊参加の経緯などについて伺った。

9月19日には「国際交流発表会」を開催し、国際的な諸問題について「今私たちができる取り組み」をテーマに、3年生はクラスごとにそれぞれの考えを全校生の前で発表した。生徒たちは、教科書や報道では知りえない開発途上国の実情とJICAによる支援の実態を踏まえ、現実的な視点からの発表を行った。

これからも、国際社会に貢献できる人材をより多く輩出することができるよう、JICA出前講座の活用をはじめとして、地域の関係諸団体と連携を図ることで、段階的な国際理解教育の継続が実現できると考えている。



教師海外研修

開発教育は実際に学校や教室の中で実践されてこそ本物です。そのためには授業を担当し、指導できる教員の拡充が不可欠ですが、国際協力の現場や開発途上国の現実を体験したことのある教員はそう多くはありません。そこで、JICAでは毎年学校の夏休み期間を利用して10日間程度の海外研修プログラムを提供しています。実際に途上国で活動するボランティアやプロジェクト現場を見ていただき、現地の人々の暮らしぶりを知って、そこで感じ、考えたことをもとに所属先の教壇で授業に活かしていただくことを期待しています。宿泊費・食費など一部自己負担ですが、往復航空賃などはJICAが負担します。



▲平成20年度のガーナ研修での様子

平成20年度は福島県から4名の教員が、ガーナで研修を行いました。

開発教育の実践に意欲と計画をお持ちの多くの教員の参加をお待ちしています。

福島県立富岡養護学校 山田 由佳子 教諭

(平成19年度参加 研修国：バングラデシュ)

マイクロクレジットの通帳を自慢げに見せてくれた女性。笑顔で抱っこしてくるストリートチルドレンの女の子。車いすの男性が手を出したのは、握手を求めたのではなくお金がほしかったから。現地では、圧倒されてばかりの

私でしたが、帰国後の授業実践で、改めて現地の経験を考え直すことができました。「途上国へ行ったことのない人が授業をすると『かわいそうな国』と伝えてしまう。1回でも現地へ行った人が授業をすると、その国のいいところを伝えよう

としてくれる。」
実践報告会で先輩の先生がおっしゃった言葉です。私にとって、教師海外研修は開発教育の第一歩でした。今後も開発教育を学び「遠い国」を「近い国」にするために日々努力していきたいです。

JICA プラザ 一般の方も気軽に見学できる

様々な国からやってきた民芸品(楽器・玩具・雑貨など)や民族衣装、また「保健医療」や「給食」などをテーマにした展示コーナーを設け、定期的に展示物を更新しています。その他にも「国際協力紹介ビデオ」や様々な国の教科書等の書籍、青年海外協力隊の活動の様子を写したパネルも展示しています。

現在(10月9日から12月8日まで)、『アフリカ』に関する展示物を公開中です。

世界のグッズの貸出

JICAプラザ内にある展示品は、一部を除き無料(貸出・返却時の送料は依頼先の負担)で貸し出しを行っています。モノの向こうには、各国の文化・伝統・習慣・生活があります。生徒の探究心をくすぐる素材として、ご活用ください。



▲ジャンベ(アフリカ太鼓)など民族楽器も多数



▲世界各国の民族衣装は試着、貸出可能でその数100点以上



▲世界の玩具コーナーには剣玉やコマ、おもちゃ楽器など展示しています。直接触れて、楽しむことができます。





今年も9月13・14日の1泊2日で、「ユース国際協力ミーティング2008」がJICA二本松を会場にして福島県国際課との共催で行われました。このプログラムは県内の高校生を対象として、国際協力・多文化共生について理解し、自発的に考え、行動でき



ユース国際協力ミーティング2008

る地球市民を育成することを目的として行われる開発教育支援事業のひとつです。

プログラムの各講座は、体験を通じて参加者自らが考え、気付くことのできる内容となるよう、ふくしま青年海外協力隊の会の皆さんによる工夫を凝らした指導と、国際協力に関心の高い大学生サポーターの協力のもとで進められました。

参加した高校生たちは、始め緊張

した表情でしたが、最後には「たった2日間だったけど、別れるのが辛い…」という声や、「身近なことにも国際協力に貢献できるようなこともあった」という気付きがありました。

このプログラムへの参加がきっかけで、高校生の『何かしたい』という気持ちが形作られ、新たな行動の第一歩になり、将来は国際協力に関わる人材に育ってくれることを期待しています。

今年の参加高校生は、次の8校から31名（男子7名、女子24名）。郡山女子大学附属高校、会津学鳳高校、安達高校、福島南高校、保原高校、富岡高校、いわき総合高校

国際協力川柳

今回の「国際協力川柳」は、「ユース国際協力ミーティング」に参加した高校生が詠んだ多数の句の中から、選び抜かれた10作品をご紹介します。

- 目を開け 世界をつなぐ 新視点
 - アクション おこせと学んだ 二日間
 - 出来ること 小さいけれど 集めれば
 - 協力で 世界がステキに 回ってく
 - さまざまな 国や文化を 考えた
 - 考える 日本と世界と 自分自身
 - 助け合う 世界の笑顔 見たいから
 - 今を知る この体験が 明日変える
 - 将来の 世界は捨てた ものじゃない
 - 幸せな 世界に変わる きっかけに
- ※読者のみなさまもぜひ、現在の心境など思い浮かんだ句をお送りください。掲載された方には粗品をプレゼントします！お名前、ご連絡先を必ず明記しファックス、又は電子メールでご応募ください。お待ちしております。



◀◀協力隊経験者による途上国の紹介や語学講座などを実施



◀[富の分配]をテーマにした「インターナショナルランチ」



海外技術研修員との交流会

福島県内では郡山市や西郷村などにある試験開発機関や民間企業などでJICAが招へいた途上国の技術者たちが、技術向上の研さん研修を行っています。技術研修の合間に近隣の学校を訪ね、児童・生徒の国際理解を育むお手伝いもしています。

西郷村立小田倉小学校 第5学年 小針 弘美 教諭

去る6月23日(月)に国際交流会が行われました。子ども達に国際感覚を身につけさせること、研修員の方々に日本の生活、文化を理解してもらうことが大きな目的でした。自己紹介の後、それぞれの国の遊びや日本の遊びを通して交流を深めました。また、給食も一

緒に食べました。子ども達は優しく語りかけてくださる研修員の方々にすぐに親しみ、おんぶをしたり肩車をしたりとまるで親子のように楽しみました。母国に我が子を残してきた研修員の方もいっしょに、自分の子どもを思い出し涙を浮かべる姿もありました。子ども達を見つ



める優しい瞳に親の子を思う愛情は世界共通なのだ改めて感じました。子ども達にとっても研修員の方々にとっても、そして我々教師にとっても大変貴重な時間になりました。

その他のプログラム

- グローバルセミナー …………… 毎年12月にJICA二本松で実施
- JICA二本松体験入隊 …………… 5月のJICA二本松オープンハウスやJICAボランティアの募集期間などに行います。
- JICAボランティア体験談&説明会 …… 毎年 春と秋の募集期間中に県内各地で行います。
- 開発教育指導者研修 …………… 学校教員を対象とした開発教育の実践手法などを学ぶ研修プログラムです。不定期開催ですが、教員グループ・団体などで共催の希望があればご相談ください。

隊員経験から学んだことを 形にして伝える



ふくしま青年海外協力隊の会 (FOCA)
開発教育委員長 布田節子(福島県在住)
(青年海外協力隊 昭和45年度第1次隊
体操競技 エル・サルバドル)

中米はエル・サルバドル共和国に派遣され、体育学校において器械体操の指導にあたってから早や30数年になります。2年間の協力隊活動を通して私が学んだことは、「生活習慣や文化は違っても人はみんな同じだということ、でも、ものさしは一つではなく、様々なつながりの中で、多くの人に支えられ生かされているということ」でした。このような貴重な学びはぜひ子どもたちにも伝えたいと思い、帰国後は帰国ボランティア会活動として学校や公民館などを訪問し、「地球体験キャラバン」という交流活動を始めて17年、JICA二本松設立10周年を記念して始めた夏の「地球体験キャラバンスペシャル」を含め、延

べ100回を超えました。また、帰国ボランティア有志で開発教育委員会を立ち上げ、高校生を対象とした「ユース国際協力ミーティング」(県・JICA共催事業に企画実践協力)や、帰国ボランティアを対象とした「地球生活体験学習研修会」などを通して、共に学ぶ仲間の輪を広げていきたいと考えています。



▲右から二人目：青年海外協力隊員時代の布田OG

(財)福島県国際交流協会

多文化が共生する持続可能な社会づくりをめざして



(財)福島県国際交流協会は、県内の国際交流に関する様々な活動を促進することで、世界各国との相互理解と友好親善を深め、地域の活性化と豊かな県民生活を実現することを目的として、昭和63年の11月に設立されました。今年の11月で設立20周年を迎えます。

このごろ身近な地域で国際化が進んでいると言われていています。福島県でも、平成19年末の県内外国人登録者数が約12,800人で、20年前のおよそ3倍となっています。このよう

に、様々な国籍、言葉、文化背景を持つ人々が暮らすようになった地域で、皆が暮らしやすい社会を創っていく必要があります。当協会は、このような「多文化共生社会」の実現を目指して活動しています。

協会の主な事業の柱は次の3つです。第1の柱は「地域の国際化の推進」で、JICA二本松や福島県など他の団体との共催によるフェスティバルやセミナーの開催、県民のみなさんへの国際交流についての情報紙「Gyro」の発行、民間団体への助成や県内の大学等に通う私費留学生への支援などを行っています。

第2の柱は、「多文化共生社会づくりの推進」で、外国出身者のための多言語による生活相談窓口の開設や、通訳・翻訳や日本語学習などで外国から来た方が地域で暮らすためのサポートをする「ふくしま多文化共生

サポーター」の活動の支援、県内38カ所の日本語教室のサポートなどを行っています。

最後の柱である「未来に持続可能な社会づくりの推進」として、多文化共生や世界の現状などを素材とした国際理解出張講座を県内の学校や学習センターなどで行っています。

みなさんも是非当協会事業へのご参加をお待ちしています。今後ともあたたかいご支援をよろしくお願い致します。





秋号
お薦めの本!!

※ISBNコード：
ISBN4-88713-704-4 C2037
(書店でのご注文の際にご利用ください)

「教室から地球へ ～開発教育・国際理解教育 虎の巻」

発行者 独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター
発行所 (株) 東信堂 2,000円 (税込)

本書は教室ですぐに使える優れたものの「虎の巻」。「開発教育ってどうやって進めたらいいの？」教壇に立つ現場の悩みを解消すべく、愛知県内の小・中・高等・養護学校の教諭、NGO/NPO、青年海外協力隊OB/OG、地域国際化協会、JICAスタッフなど、実際に開発教育に関わっている当事者が集まって共同で作成にあたりました。どんな流れで授業を組み立てると子どもたちの理解が進むのか、痒いところに手の届く構成となっています。オススメポイントは、①モデルプログラム (多様なテーマの流れのあるプログラム集)、②ユーザーフレンドリー (わかりやすく気軽に取り組めるノウハウ集)、③ネットワーキング (つながりを築くためのリソース集)。誰でもすぐに利用できる教材、まさに「虎の巻」です。

新シリーズ連載

異文化の眼 [第1回]

(シリーズ連載「せかいのくから」は「異文化の眼」にタイトルが変わりました)



福島で過ごして感じたこと

インドネシア語 語学講師 レニー サムスティン 星 先生



▲インドネシア (バリ島)

インドネシア人である私が日本に住んで約17年、これまでいろいろな人との出会いや体験をしてきました。その中で日本とインドネシアとの違いについて自分なりに感じたこととして、日本には自然が豊かにそのまま残されているということがとても印象的です。川を流れる水を見てもインドネシアの川とはとても対照的できれいだと思います。地元のボランティアの人たちがみんなでゴミを拾っている姿を見ると、みんな一人ひとりが川を守るという意識があり、インドネシアも見習うべきことだと思います。でも、最近の日本では川で遊ぶ子供たちの姿が見えないのが残念でなりません。

また、家族を見ても、インドネシアと大

きな違いがあります。インドネシアでは、家族みんなで一緒に家に住むのが当たり前の習慣です。ですからインドネシアには老人ホームというものがありません。最近、一人暮らしのお年寄りが一人静かに亡くなっていたというニュースを見ると悲しくなってしまいます。

ところで、私は、日本とインドネシアの違いについて考えるとき、インドネシアも見習うべきところ、逆に日本もこうだったらいいのと思うことがたくさんあります。しかし、それは時として、日本という異国を自分の価値観ばかりで判断してしまう自分がいることに気づかされるのがよくあります。日本に来たばかりの当時は、それが日本の文化や習慣に慣れるための妨げになっていたこともしばしばでした。

そう感じた私が日本での生活でいつも心掛けていたことは、文化や習慣など、必ずインドネシアと同じ何かを見つけることでした。日本もインドネシアも同じところがあるんだと思うと、自然と自分の心を開きかけができて、日本の生活に早く慣れることができると考えたからです。

私が二本松訓練所でインドネシア語の語学講師をして1年が過ぎました。これまで接してきたJICAボランティアの候補者の人たちへは、「国と国との違いを見つけることも大切だけど、同じところも見つめられると生活がとても楽しくなるよ。」といつも話してきました。

同じく母国を離れて異国で生活する者として、候補者たちが晴れて隊員となって任地の生活に早く溶け込むようになることが、もう一つの私の願いです。



インドネシア共和国 国旗

インドネシア共和国 Data

| | |
|-----|---|
| 面積 | 約189万平方キロメートル |
| 人口 | 約2億2千2百万人 (2006年政府推計) |
| 首都 | ジャカルタ |
| 公用語 | インドネシア語 |
| 通貨 | (インドネシア)ルピア (IDR) 100IDR≒¥ 1(2008年10月現在) |



World Quiz ワールドクイズ

Q インドネシアで、異物を誤飲した際に飲むと良いとされているものは何でしょう？
①マンゴージュース ②パイナップルジュース ③ヤシの果汁

答えは②ページに

福島県出身の候補者

174名の候補者が10月8日に派遣前訓練を開始しました

平成20年度第3次隊(二本松青年海外協力隊訓練所)

世界中の人々に、ほんとうの愛を送りたい・・・



JOCV 伊東 和希
 出身地：伊達市
 派遣予定国：インドネシア
 職種：野菜



SV 岡田 眞一
 出身地：いわき市
 派遣予定国：シリア
 職種：工場管理と改善活動

以前から国内外の環境問題に興味をもっていた私は、ボランティアという立場を通して、テレビや新聞で知ることを実際にこの目で見たいと思い、応募することを決めました。

インドネシアでは、健康野菜の栽培促進、有機肥料の利用促進、健康野菜の販売促進活動を行う予定です。

農家で育ち、大学では農学全般を学んできたため、「これから出会う人々のため、広くは世界の明日のため」、これらの知識を任国の活動に活かしていきたいと思えます。

地元の製造会社に勤務し、30数年間鑄造品の製造に従事していましたが、退職後在職時代に培った技術や経験を、発展途上国の産業の発展に貢献したく、今回三度目のJICAシニア海外ボランティアに応募しました。

今回の派遣先は中東の国シリアで同国第二の都市アレppoの工業会議所に加盟する地元企業の工場管理と改善活動の指導を行う予定です。併せて同国の人々に福島県を紹介し、両国の交流促進にも役立ちたいと思っております。

駒ヶ根訓練所 福島県出身候補者

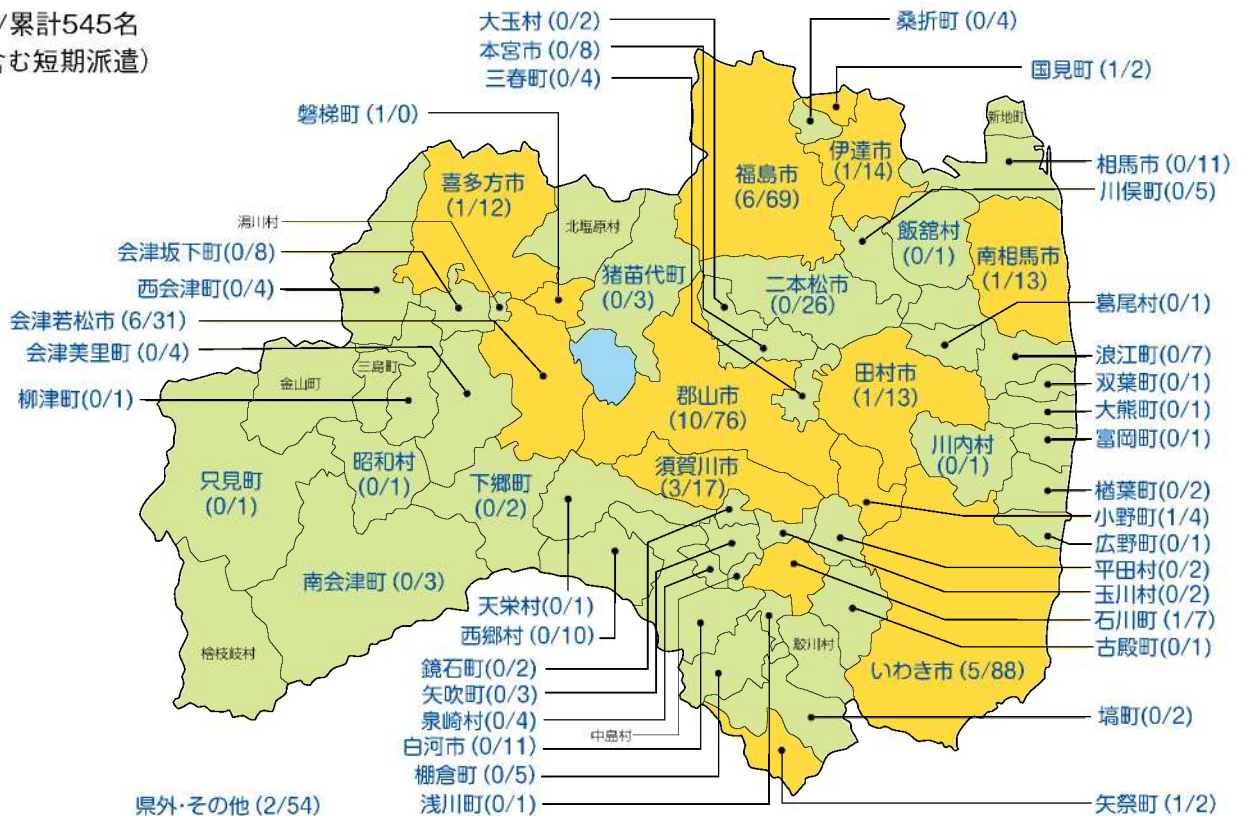
(出身地/派遣予定国/職種)

- 角田 幸枝
(白河市/ドミニカ共和国/保健師)
- 雑賀 裕子
(双葉郡/パラグアイ/看護師)
- 馬場 周平
(会津若松市/ブルキナファソ/視聴覚教育)

福島県出身JICAボランティア 2008.10.1現在 (派遣中/累計)

黄色：派遣中ボランティアの出身地

合計 派遣中41名/累計545名
(含む短期派遣)



11月～12月のイベント情報

| | | |
|----------------------|--|----------|
| 11月10日(月) | 平成20年度 青年海外協力隊・シニア海外ボランティア 秋募集応募締切 | ←下にポスター |
| 11月16日(日) | 財福島県国際交流協会設立20周年記念事業 (「詳しくは、財福島県国際交流協会のホームページをご覧ください」) | |
| 11月22日(土) | JICA帰国専門家福島県連絡会主催 中国・技術研修員、留学生との交流会 (詳しくはJICA福島デスク TEL:024-524-1315 まで) | |
| 12月11日(木) | 平成20年度 JICAボランティア 第3次隊 派遣前訓練修了式 | |
| 12月13日(土) ・14日(日) | ふくしまグローバルセミナー2008 (一泊二日)(於:JICA二本松) | ←右下にポスター |

JICA二本松 公開講座

JICA二本松では、JICAボランティア向けに様々な講座を実施しています。下記の講座では、一般の方々も無料で参加することができます。

| 開催日 | 時間 | 講座内容 |
|-----------|-------------|--|
| 11月 1日(土) | 15:10～17:00 | 公開講座「異文化の理解と適応」 講師：関谷雄一(青山学院女子短期大学 准教授) |
| 11月 7日(金) | 19:00～21:00 | 公開講座「地球のステージ」 講師：桑山紀彦(「地球のステージ」代表) |
| 11月19日(水) | 15:10～17:00 | 公開講座「イスラム教とは何か」 講師：青山弘之(東京外語大学 准教授) |
| 11月24日(月) | 15:10～17:00 | 公開講座「ジェンダー入門」 講師：水野桂子(フリーコンサルタント) |

※「公開講座」の申し込み方法は、下記JICA二本松の電話番号にて募集・広報担当者宛にお問い合わせください。また詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

平成20年度 青年海外協力隊・シニア海外ボランティア 秋募集

11月10日(月) 応募締め切り

募集中 10/11/10

世界も、自分も、変えるサポート

人生のたいせつな2年間。きっと世界のために、きっとあなたのために。

青年海外協力隊 シニア海外ボランティア

www.jica.go.jp JICAボランティア

※福島県内の募集説明会は、すべて終了いたしました

FUKUSHIMA GLOBAL SEMINAR 2008

ふくしまグローバルセミナー2008

JICA二本松で世界を学ぼう。

参加者募集中!

「ふくしまグローバルセミナー2008」は、国際交流・国際協力・多文化共生・国際理解協力のための参加型セミナーです。外国出身者による母国紹介から国際理解学習プログラム、海外ボランティア体験談など30を超える幅広い内容の講座を用意しています。

日程 12月13日(土)13:30～14日(日)13:30

会場 JICA二本松(福島県二本松市)

対象 一般(高校生以上)

定員 130名

申込締切 11月25日(火)必着

費用 一般:5,000円(地方11,000円)

学生:3,000円(地方7,000円)

福島県国際理解教育ネットワーク

主催 JICA二本松

協賛 福島県国際課、福島県国際交流協会、福島県国際理解教育ネットワーク

http://www.pref.fukushima.jp/kokusai/

県民カレッジ連携講座

今回で12回目を迎える「ふくしまグローバルセミナー2008」は国際交流・国際協力・多文化共生・国際理解協力についての参加型セミナーです。外国出身者による母国紹介から国際理解学習プログラム、海外ボランティア体験談など30を超える幅広い内容の講座を用意しています。

詳しくは福島県国際課のホームページをご覧ください。

JICA 二本松 メールマガジン

JICA 二本松では、毎月中旬に無料メールマガジンを配信しています。毎号、JICA 事業(訓練の様子、技術研修の紹介)や各種イベントなど、福島県を元気にする、様々な国際協力・国際交流に関する情報をお届けします。無料購読を希望される方は…

☆登録方法☆

[jica-ntc-ctl@joca.or.jp]宛てに、本文に【subscribe】と入力して送信してください。

※“CC”と“件名”欄への記入の必要はありません。

[登録された情報は、JICA 二本松が適切に管理し、メールマガジンのサービス以外の目的で利用することはありません。また、無断で第三者に情報提供することはありません。]

JICA二本松へのアクセス

独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所

E-mail: jicanjv@jica.go.jp

〒964-8558

福島県二本松市永田字長坂4-2

TEL: 0243-24-3200

FAX: 0243-24-3214

※皆様からのご意見等をお待ちしております。

◆本誌、バックナンバーがご覧になれます…

URL <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/newsletter.html>

